



號一十八第
月六年九十和昭
行發日五十月一年每
錢五部一價定
錢十六(共稅)分年

勝ち抜く國民態勢

日本民族本然の姿に還れ

社長 古野伊之助

第二戦線の結成

今次の世界大戦もいよいよ決戦の段階に入った。即ち歐洲における第二戦線の結成、三年越しの第二戦線の企は今年に入つてからも或は三月だらう、或は五月だらうと全世界を通じての揣摩臆測の目標であつた米英軍の歐洲大陸侵攻の企はいよいよ現實の問題となつて現れた。

從來ソ聯とドイツ兩國の戦力消耗のみを傍観して、一意大陸侵攻の準備に没頭してゐた米英は、國內情勢からみても、また對外關係からみても、この上歐洲大陸侵攻の企圖を遷延することができなくなつて、いよいよ北フランスを足場として、大陸侵攻の決戦に乗出して來た。このことはわれわれの職場を通じて細大洩さず全國民、否東亞の諸民族に對して刻々通報してゐる通りの情勢である。

盟邦の勝利念願

ドイツの戦力は今その最高潮に達してゐる。待ち構へた米英の侵攻作戦を徹底的に粉砕して、その存立を永久に確保し、ドイツを中心とする西ヨーロッパ共榮圏の確立、歐洲新秩序の實現に向つて必

死の努力をなすであらうことはいふまでもない。第一次、第二次の大戦を通じてドイツ民族の存に與廢は、この一戦にかかつてゐる。

この戦争の歸趨がどうなるであらうかは、今後少くとも數週間の戦局の發展に徴する以外に、いろいろな希望的、若くは感情的な揣摩臆測を繰返してみても意味ないことである。われわれは極めて冷静に、努めて沈着に、歐洲の戦局の發展を注視するのほかにないの

しかしながらこれが今後の世界の運命に、人類の動向に大きな段階を劃することはいふまでもないことである。冀くは盟邦ドイツがその總力を擧げて、この機會に米英の戦力を粉砕撃滅し、獨りドイツ民族の生存を地球上に確保するのみならず、歐洲に新しき秩序の確立に最後の勝利を握ることを衷心より念願するものである。

この世界新秩序確立の重大任務は、ひとりドイツ民族が擔當してゐるのではない。否むしろ、われわれ日本民族が歐洲の戦局の推移を観望しながら、日本民族一億の双肩にかかる世界の運命、人類の

動向、この責任の重大さを痛感しなければならぬと思ふ。太平洋の洋上において、また東亞の大陸において、もう一つ世界の運命を決する大決戦が刻々とわれわれの目の前に迫つてゐることを痛感せざるを得ない。

歐洲における第二戦線結成の企が如何なる結果をみようとも、われわれ一億國民は最後の一人になるまで正しき世界の秩序建設のために戦ひ抜き、勝ち抜かなければならない。

どうしたらこの戦が勝ち抜けるか、どうしたら最後の勝利を握れるか、われわれの全能力、全努力をこの一點にのみ集中しなければならぬのである。

私はかねがね主張する通り今次の東亞における日米の決戦は敵の日本本土空襲、フライビンの奪回作戦をもつて本格的段階に入るものと思ふ。

しかしながらにして世界の情勢を刻々窺めてゐるわれわれ同盟の同志は沈着冷静に世界の大局を客觀的に把握し、その正しき認識の上に立つて國民の戦争意識の昂揚に、敵意の粉砕に努力しなればならぬことは、ここに改めて繰返すまでもない。

支社に昇格

プキチンギ支局(スマトラ)は六月一日附支社に昇格した。

支局 新設

河南作戦新占領地新郷、鄭州、洛陽、許昌の四ヶ所に設置された野戦支局は鄭州支局に統合したが同支局の所在地は左の通りである

鄭州支局
鄭州市保壽街七十一號
ボルネオ島西部の新要衝アビ市

提はれて、この大精神に醇化されぬ傾向なきにしもあらず、しかしながら日本民族の姿を正視するところき、國難來るの聲の傳はるところ一君萬民の熱情が燃え上らないものはないのである。

この頃われわれと机を並べて働く同志の中にも、その現象が明瞭に現れてゐる。最近或る社員は長男が應召して一兵卒として征つたが、その第二番目の弟は航空士を志願して行つた。第三番目の弟はその母親がせめてこの子だけは理工科でも入れて、さうした部面で國家のために盡させたいと思つたさうだが、その子供は敢然として「國家あつての學問でせう」と一言答へたまま海軍兵學校に入學した。かくのごとくにして三人の兄弟は三人とも直接戦争に役立ちたりと挺身したのである。

こんなことを拾ひ出したら諸君の身邊に數々あることと思ふ。かくのごとくして國難一度來る皇國の日本の若者の血は沸き上つてゐるのである。もう身も家も忘れて、君のため、國のために、その身命

に六月一日支局を新設した。
△アビ支局
△アビ市ダンロップ街一四號

兩支局 移轉
高松支局および那覇支局は過數左に移轉した。
△高松支局
△高松市濱ノ丁二番地
△那覇支局(六月一日)
△那覇市牧志町一丁目六四〇番地

支社局事項
プキチンギ支局
支社に昇格
支局 新設
鄭州支局
ボルネオ島西部の新要衝アビ市

國民皆兵
從つてこの精神を移してもつて國民皆兵となす。何歳が徴兵適齡だなどといふ形式的な考へ方は解消されるべきであつて、老も若きも總て武装して立つべきである。

最近わが社に入つてくる外國電報をみてみると、その中に敵アメリカでさへも二十歳から三十五歳までの女子を徴兵すべしといふ法案が議會に提出されてゐる。敵米英の戦力を過小評價したり、彼等の戦意を見縮つたりすることは大きな誤りである。アメリカでさへも女子を徴兵にとらうとしてゐるのである。わが皇國日本の婦女に對する今日までの國民動員の施策に比して一歩も二歩も前進してゐるのではなからうか。

わが國は少くも男も女も、老も若きも、みな全部兵である。何時でも國難に殉ずるの準備がなくてはならぬ。この意味で私は眞に國民皆兵の姿勢に進まなければならぬと考へる。(以下第四頁へ續く)

支社局事項
プキチンギ支局
支社に昇格
支局 新設
鄭州支局
ボルネオ島西部の新要衝アビ市

互助會報告

〔四月分〕

海外局囑託 余振常
 依願解職(五月二十日附) 日比野良夫(編輯局)
 總務局勤務准社員 都築 三郎
 依願解職(五月二十五日附) 古澤 武夫(同)
 小樽支局同 鈴木ふじ子
 同 奥出キヨ子
 依願解職(五月三十一日附各通) 和田 淳一(總務局)
 華北總局勤務社員 陳 其 文
 解職(二月三十一日附) 金井 義元(南方總社)
 門司支局同 河村 清
 解職(四月三十日附) 內本 誠止(同)
 住谷 新市(同)
 岡野 忠一(大阪支社)
 小寺 巖(同)
 林 誠治(同)
 三浦 良道(同)
 古田 二郎(名古屋支社)
 金子 正夫(同)
 増田 正二(京城支社)
 川口孫三郎(旭川支局)
 赤澤 六郎(盛岡支局)
 駒木 源八(同)
 浦野 松男(新潟支局)
 吉川 金一(仙臺支局)
 楠 正幸(徳島支局)
 三浦徳次郎(門司支局)
 森山 末松(熊本支局)
 野田 浩(平壤支局)
 山上 正(臺中支局)
 田中 一夫(同)

△結婚

勝又 正壽(經濟局) 長女
 鈴木 俊男(聯絡局) 長女
 藤原 文雄(海外局) 長女
 岸江 憲一(同) 長女
 大西 正之(大阪支社) 長女
 中島 軍次(福岡支社) 長女
 周原 光郁(清津支局) 長女
 桂木 吾郎(華北總局) 長女
 田中 一雄(同) 長女
 岩本 正雄(京城支社) 長女

同盟分會查閱

郷軍同盟分會は五月下旬より教官赤堀中尉(整理部)指導の下に本年度第二次基本訓練を開始し、日比谷原頭勇壯な戦時下操縦者繪巻を展開してゐるが、六月二日新任東京支部長平井卯輔少將の初任査閲を受けた。この日午後三時三十分平井少將は司令部附森本中佐を帶同して突然分會を訪れ、折柄實施中の第二部教練を仔細に視察されたのも本社編輯部において同盟式文字電送機について大平編輯局長の説明を聞き、續いて分會の

△出生

北川 武(同) 次男
 熊谷 實(同) 二女
 兼村 讓(華中總局) 長男
 水谷 啓二(同) 長女
 松下 重男(同) 長男
 齋藤 烈(同) 二女
 堀江 倉一(南方總社) 長男
 △應召・入營・應徵
 尾崎 義夫(聯絡局) 同
 土門 文治(同) 同
 本田 正三(編輯局) 同
 大富 信二(聯絡局) 同
 渡邊 忠恕(編輯局) 同
 今井十志夫(同) 同
 朝倉 隆(同) 同
 林 勝郎(總務局) 同
 鈴木 俊男(聯絡局) 同
 上出 正七(海外局) 同
 金井 洗耳(經濟局) 同
 有本 功(大阪支社) 同
 市川 喜一(同) 同
 角住 富夫(同) 同
 小野寺壽美夫(同) 同
 山村 行雄(同) 同
 中村 壽雄(同) 同
 大野 正(同) 同
 川上大三郎(福岡支社) 同
 田岡甚一郎(同) 同

△見舞

倉田幸次郎(總務局) 病氣
 會田 國子(同) 同
 菊地久太郎(聯絡局) 長女同
 直井 靜江(編輯局) 病氣
 旭 寅吉(同) 災害
 深谷 とく(聯絡局) 病氣
 井關 實(編輯局) 同
 田崎喜衛(同) 同
 明峰 嘉夫(同) 同
 光永 廣(同) 同
 三浦 良知(同) 同
 沼佐 隆次(同) 同
 長島 又男(戰時調査室) 同
 木村 靜代(編輯局) 同
 藤原 文雄(海外局) 同
 一條 重一(同) 同
 大林 秀(同) 同

△慰

龜井種治郎(華中總局) 父死亡
 荒川忠太郎(シンガポラ支局) 同
 中村 伸康(編輯局) 實父死亡
 石井 孝(總務局) 死亡
 鹽谷 邦夫(アンボン支局) 父同
 齋藤 國雄(總務局) 死亡
 齋藤 兼次郎(經濟局) 實父同
 穴戸 貞夫(編輯局) 長女同
 坂井 金二(總務局) 次男同
 前田 整助(大阪支社) 弟戰病死
 前川 治(同) 實父死亡
 宮本八枝子(同) 祖母同
 福吉 健治(同) 實母同
 安岐 宇吉(同) 死亡
 廣田 應球(京城支社) 三女同

△退社

富川 節夫(高知支局) 夫人同
 久原 一馬(門司支局) 死亡
 小橋 房惠(同) 同
 金田 明替(釜山支局) 實弟同
 鶴見 安(青島支局) 實父同
 小久保丈夫(華南總局) 夫人同
 京谷 定茂(マカッサル支社) 實母同

△慰

武田 文雄(大阪支社) 盜難
 横地 倫平(同) 同
 岸 芳一(同) 同
 渡邊政之助(同) 同
 岡田 朝雄(同) 同
 吉村 勉(同) 同
 魚住マヌヨ(同) 同
 長尾 義男(同) 同
 窪田 朝雄(同) 同
 諸岡 一男(同) 同
 山野 喜祝(同) 同
 村田 明生(名古屋支社) 同
 伊藤 勘太(同) 同
 坂本 熊基(福岡支社) 同
 沖本 薫(同) 同
 沖本 薫(同) 夫人同
 津吉 英男(京城支社) 病氣
 刀根 治平(福岡支社) 同
 佐藤 好也(仙臺支局) 同
 桃井 幸吉(同) 同
 布利幡兼雄(長野支局) 夫人同
 河瀬 守二(金澤支局) 病氣
 宮井 幸子(京都支局) 同
 磯部 政雄(門司支局) 同
 鎌田 秀雄(鹿兒島支局) 夫人同
 井上 忠夫(華中總局) 病氣
 眞山 行雄(マニラ支社) 同
 大谷 行己(同) 同
 小澤 武二(盤谷支局) 盜難

△慰

富川 節夫(高知支局) 夫人同
 久原 一馬(門司支局) 死亡
 小橋 房惠(同) 同
 金田 明替(釜山支局) 實弟同
 鶴見 安(青島支局) 實父同
 小久保丈夫(華南總局) 夫人同
 京谷 定茂(マカッサル支社) 實母同

合計(件数) 一九九件
 金額 一三、六〇〇圓

鄭州支局初便り

河南作戦報道班の活躍

報道部長より謝電

京漢線沿ひの要衝悉く我が手に
 歸し、南北兩軍握手の公表も近い
 と、鄭州市保壽街七十一號に開設
 した野戦支局で、支局長格の田島
 義夫(天津)、無電主任格の田中
 一夫(北京)以下全員が、陣頭指
 揮のため鄭州占領とともに乗込ん
 できた大鋸華北總局編輯部長を中
 心に、萬全の送信に頑張つてゐた
 五月十日の午下り、北支軍報道部
 長竹田中佐が軍刀を握つて乗込み
 懸命の仕事をしてあげたかと思ふと
 「これを」と一通のバタを残して
 立去つた。

フルノシヤテウアテ
ゴブサタシマシタ」モツカゼン

社長訓示

第一頁より
り續く

國民皆農
 その第三は國民皆農である。今
 次の大戦争をみて熟考考へることは
 今度のやうな大戦争を敢行する
 には食糧を確保してゐる國でなけ
 れば持久戦は出来ないといふこと
 である。

支那事變勃發以來、大東亞戦争
 突入以來、われわれは何をやつて
 きたか。南から米を入れるとか、
 朝鮮や臺灣における米の生産高を
 計算に入れての島帝國食糧問題を
 論議したのではなかつたか。
 食糧を農民の力にのみ頼つて供
 給を受けようとする考へが根本的
 に誤つてゐる。農村の手不足など

センニアリ」ゲンチドウメイシ
 ヤインシヨクンコクケツボウ
 ニタエ」イツケウリヨク」フ
 シトウセラレアルコトヲ「トク
 ニゴホウコクス」タケダ
 文面をながめてゐた一同、報道
 部長のこの激勵的感謝にこたへて
 「やうらうぜ」と喜びあつたのであ
 る。

前線支局を開設

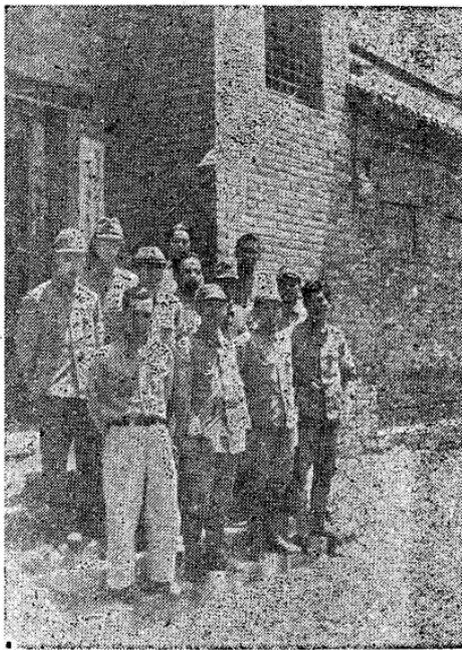
河南作戦についてはまだ多く自
 由に語れぬが、同盟が素晴しく働
 いて、その眞價を發揮したことだ
 けは自慢できる。多くをいはずと
 も上掲のバタが一切を語つてくれ
 よう。

今度の作戦にも報道班制が採用
 されたが、従來の他の例とは變つ
 といふ考へ方がそもそも錯覺を來さ
 しめる。即ち國民全部が百姓であ
 り、農民であるといふ觀念にさへ
 立戻らなければ、日本全土食糧の生
 産は有り餘る筈である。

國民皆工、一億一家

第四は國民皆工である。今度の
 大戦争は高度の科學戰であり、工
 業戰であることはいふまでもない
 生産力の増強は戦力の増強である
 國民全體の工業生産力を徹底的に
 強化することが戦争に勝ち抜く所

た異色あるやり方であつた。この
 新しい報道班制で鈴木總局長以下
 華北總局員及び國通社員等は全く
 必死の活躍を續けたのである。
 しかも取材報道以外に、われら
 の責務まだありと、占領地區に支
 局を開設、陣中通信の發行、報道
 班本部無電班の補助、軍各機關の
 特殊任務への協力などをづけ、
 軍各當事者の感謝と激勵をもつて



迎へられた。前線支局は次の四ヶ
 所に開設された。
 △新郷支局(間もなく鄭州支局
 に移駐)
 △鄭州支局
 △洛陽支局(報道班解散後開設)
 △許昌支局
 これらはのち鄭州支局に一應統
 合され、ここで各地區への取材と
 連絡にあつたが、鄭州支局開設

當時の現在員は總勢〇〇名で、五
 月十七日には鈴木總局長が芳賀通
 信部長を伴ひ前線激勵に現れ、そ
 の夜は石疊の上にアンペラを敷き
 毛布にくるまつて寝るといふ困苦
 生活を味つたのであつた。
 新占領地で佳節を迎ふ
 四月十八日、北支軍がひとたび
 急襲的作戦の火蓋をきつておとす
 や、各前線班は一齊に出動、總局
 からは大阪時太郎君(北京)が支
 局設営に單身新郷に先行、新郷報
 社に同盟社旗をかかげた。
 ついで無電班が新郷に乘込み、
 二十七日には田島部長等四名、二
 十八日には田島君が勇躍これに合
 流する。

司法省の次官や局長等が今まで
 は顧みもしなかつた囚人―窃盜、
 強盜、殺人などの犯罪によつて獄
 裡に強制監禁されてゐた者共―
 に立ち混り、起居を共にして彼等
 の手をとり、肩を叩いて、この國
 難に面し一億總力の結集に死物狂
 ひの努力をしてゐるのである。

日米決戦への努力

かくのごとくしてわれわれが最
 高度の國防國家體制を確立強化し
 この基盤に蟠居して目下展開され
 つつある印緬作戦、支那大陸の大
 作戦、來るべき太平洋における米
 英の反撃作戦の撃滅へと、刻々に
 迫る日米の決戦に向つて、われわ
 れの最後の努力を集中しなければ
 ならぬと思ふのである。(昭和十
 九年六月八日午前八時本社におけ
 る大詔奉戴式訓示)

かくて後續部隊の來着を迎へる
 や、豫中日報社社の逆産を引受け
 ここに「どうめいつうしんしやて
 いしゆうしきよく」の看板(竹田
 報道部長揮毫)をかかげ、同盟社
 旗をひるがへしたのである。しか
 して五月一日には陣中通信第一號
 を發行、戰濟んだ街々に貼出され
 て行人を驚かした。
 陣中通信發行は軍の支持後援が
 あつたればこそ、かく早急に發行
 をみたのであつたが感激特に厚か
 つた軍の協力の一例は電池を補給
 してもらつたときである。兵器部
 長閣下の取計らひで貴重な乾電池
 を補給してくれたときは、われわ
 れを雀躍して喜ばしたのであつた
 その他〇〇參謀長が陣中通信が
 遅いといつて副官を叱つたといふ
 話、給水班が自發的に御苦勞さま
 といつて飲める水を給水しに來て
 くれたこと、汗だくになつて六キ
 ロの道を陣中通信をとりに通ふ病
 院部隊の〇〇曹長の熱心等には支
 局員一同、ただもう感激に胸がい
 つぱいになるのであつた。

白酒で乾杯

悪天候にわざはひされて初め二
 三日は送受信に苦勞したが、やが
 て受信も、打信も殆ど完全に消化
 するやうになつた。かくするうち
 に五月二十五日を迎へ、この日洛
 陽陥落の發表があり、ついで御嘉
 尚を拜したのである。將士とも
 にわれわれも亦恐懼感激のほかなか
 つた。白酒の乾杯に夜空の星を美
 しく仰いだ氣持ちは、同盟人なら
 判つて貰へよう。

今や戰塵ややをさまり、われら
 の任務も自ら性格を變へてきた。
 報道班解散後、同盟独自の取材報
 道が力強く行はれる日におけるわ
 れらの活動を期待して頂きたい。
 (鄭州支局においてQ生報、寫眞
 は支局前における同志の勢揃ひ)